

2017

## 矢切通信

### 第十五話



←矢切の名物、枝垂れ桜が満開になった。多くの方が美しさに、思わず立ち止まって見上げる。

→東京方面から、自転車の客をのせて舟が渡ってきた。

外は花散らしの雨。金、土、日と三日続きの雨だ。

矢切の渡しは休みだ。稼ぎ時だというのに、この雨は痛い。舟頭さんもさぞ頭が痛いことだろう。なにしろ仕事にならないわけだから、したがって当たり前のことだが収入もない。

そんなグチをいっていてもはじまらない。舟頭さんは何十年も渡し舟を営業しているわけだから、何度もおなじような経験をしているわけだから、身の処し方はわかっているだろう。

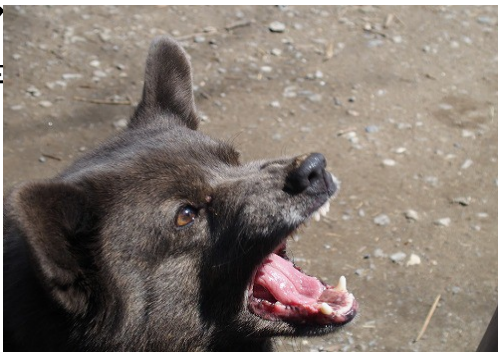
舟頭さんより私のほうが頭が痛い。なにしろ部屋にこもりきりで、とりたててやることもない。テレビも見あきたし、だからといって本でも読めばいいではないかと思うだろうが、こんなときは読んでも頭にはいらぬ。

ではコンピュータで遊べばいいではないかと、若い人なら思うかもしれないが、おじさんはそんな発想にもならないのだ。

そういえば四日前のことになるが、一人のおじさんと、一人のおばさんがそろって矢切の渡しにやって来た。

## 今週のクマ

→クマは焼き芋が大好き。食べている人のそばで、口を開けてねだる。



→土手のスカンポが伸びてきた。懐かしさのあまり食べてみたが、子どものころは、どうしてこんなものが美味しかったのだろう。不思議だ。



七十はとに越えているだろと思える二人づれ。年をとっても仲のいいことだ。そう思ってた見えていたら、二人そろって売店で焼き芋を注文した。

お金は別々に払っている。ふたつ並んだベンチに別々にすわって、

「あら、この焼き芋ずいぶん美味しい」  
おばさんが感嘆の声をあげた。

「そうなんですよ、ここの芋、うまいんですよ」

と、私。

世間では安納芋がうまいという評判だが、それよりねっとりしていて甘い。矢切の渡しの名物だ。たいていの人はいちど食べたならこの味は忘れない。

矢切の渡しのマスコット犬、コーギーと甲斐犬のミックス犬のクマがおじさんとおばさんのそばにすわって、じっと見あげている。

クマは焼き芋が大好きなのだ。おこぼれをもらおうと、よって来たのだ。むいた皮を投げてもらって食べる。

「あら、このワンちゃん、食べてる…」  
おばさんが驚きの声をあげる。続いて芋のほうををちぎって与える。

昼下がりの、のどかなひと時だった。